

決算審査特別委員会（本審査）

令和7年11月6日（木） 議場

【町立病院】

○高橋委員長 再開前にお願いがあるんですが、説明員の方は挙手をして、そして「はい」と声を挙げて、そしてこちらに示していただくようお願いいたします。それともう一つ、マイクか立っていますけど、口元のほうに向けて発言していただくよう併せてお願ひいたします。よろしくお願ひします。それでは委員会を再開し町立病院の本審査に入ります。2番、佐久間委員。

○佐久間委員 はい。8番、佐久間ふみ子です。医療技術職員養成修学資金貸付金のPRについて学校訪問時に行っていることですが、町内外の学生に対してこの制度の認知度を高めるための広報の取り組みについてお伺いします。

○高橋委員長 はい、どうぞ。

○総務係長 町立中標津病院管理課総務係の篠原です。ただいまの佐久間委員の御質問にお答えいたします。医療技術職員養成修学資金貸付金及び看護職員等確保対策貸付金につきましては、それぞれ慢性的に不足する看護職員、医療技術職員を確保するために設けられているものでして、医療技術職員養成修学資金貸付金は、現在、看護学校等の養成学校に進学しているもので当院での就職を誓約する者に対して、看護職員等確保対策貸付金は、当院に就職した者に対して、それぞれ貸付けを行っているものです。それぞれPR方法について御説明いたしますと、医療技術職員養成修学資金貸付金につきましては、例年、根室管内の高等学校にチラシですとか申込み用紙を送付する他、中標津高校などの近隣の高等学校につきましては直接足を運んで、保護者、生徒に対する説明会を開催、その他の実習等で看護学生などが来院した際にチラシや申込み用紙の配付、また、看護学校等訪問の際にこの制度の周知PR、また、広報中標津に記事を掲載するなどしております。看護職員等確保対策貸付金につきましては、例年4月に院内で実施する新採用職員オリエンテーションの際に制度の紹介、申込書の配付等を行う他、同じく看護学校等に訪問した際に周知PRを行っているところです。慢性的に不足する医療技術職員の確保のためにも、これらの制度を効果的に活用することは重要だと考えておりますので、引き続き周知PRの方法について検討しながら対応ていきたいと考えております。以上です。

○佐久間委員 はい、以上です。

○高橋委員長 はい。この件について他に質問ありますか。はい。なければ、3番、平山委員。

○平山委員 5番、平山光生です。目標達成に向けた具体的な取り組みの進捗に院内の情報共有が含まれていませんでした。実際はどの程度の頻度でミーティングが行われているのか、また、ライン通知サービスの試験運用の結果について、令和6年度について期間は短いんですけども、そこにについて教えてください。

○高橋委員長 はい、どうぞ。

○経理係長 町立病院経理係長の佐々木です。ただいまの平山委員の質問に回答させていただきます。2点目になりましたラインの回答のほうは担当課より改めて回答させていただきます。まず私のほうから1点目の質問について回答させていただきます。経営強化プランの目標達成についてはプランに掲げていますとおり、幹部職員が経営強化に強い意識を持ち経営感覚を有すること、そして、全職員が目標達成状況を共有することが重要であると認識しております、定期的に院内の情報共有を図っております。主なものを申し上げますと幹部連絡会、こちらについては週1回開催して

おりまして、病院の管理運営であったり各部門間の調整などを行っております。続いて管理職会議、こちらは月に1回実施しております、病院の運営方針の決定であったり、重要事項、重要施策の実施決定、経営状況などを協議しております。そして、経営報告会、こちらも月に1回実施しております、こちらについては幹部職員ではなく係長職以上を対象とした月1回の経営状況の報告を実施しております。そして、年に1度ですが病院会計の現状報告ということで、全職員向けにメーリングリストでですね、病院会計の現状報告、こういったものを実施しております。以上です。

○平山委員 委員長。

○高橋委員長 はい、どうぞ。

○平山委員 はい。5番、平山光生です。再質問させていただきます。会議については定期的にやられているということですけれども、最初の経営改革のときに看護師さんだったりお医者さんだったりとか、全員で経営について話し合う院内ミーティングが非常に有益だったという話も伺っていますが、係長職以上全体の会議は年に1回ということで、例えば病院へのお手紙だったりとかっていうことに対する回答であったり検討というのは、この幹部会議、または管理職会議の中で話し合われているのでしょうか。

○高橋委員長 どうぞ。

○事務長 はい。ただいま質問に対して御回答させていただきます。おっしゃるとおり、病院経営改革が始まった時点では、医師、看護師、各種コメディカルの方々を踏まえて、ワーキンググループなどを作って、それぞれの分野についていろいろ検討を重ねてきました。その部分で一定の役割を終えたという判断のもとに、次はそれぞれの部署の中で検討を進めるということになっており、今前段、佐々木係長が申し上げたとおり、幹部連絡会、管理職会議、経営報告会、その中で順次、皆様方に当院の職員に知りたい情報を下ろし、各部署でそれぞれにミーティングが行われているというところでの情報共有というのを進めているような状況になります。以上です。

○平山委員 委員長。

○高橋委員長 どうぞ。

○平山委員 はい。5番、平山光生です。再質問させていただきます。例えば先ほどもちょっとちらっと話したんですが、病院への手紙だったりとかっていうところに要望、感謝の気持ちですか、またいろいろなパターンですごく多くの方に毎月寄せられていると思うんですけれども、改善に関することであったりとかっていうものも結構多く見られていると思います。それに対してこの各部署での共有じゃなくて、連携して共有したほうがいいもの、一緒に聞いて解決について話し合ったほうがいいものっていうのも中にはあると思うんですけど、そういったものに対しては、どういった会議の場で話し合いになるのでしょうか。

○高橋委員長 どうぞ。

○事務長 はい。ただいまの御質問に御回答させていただきます。当病院へのお手紙、以前、このお手紙をやる前までは基本的にちょっと御批判の声がよく聞かれていたっていう状況がありまして、そういう中から実際に生の声をお聞きしたいというところから病院の部分へのお手紙っていうのを進めてみましたが、やはりそれをやることによって、何て言うんでしょう。ありがとうっていうお言葉もよく増えています。ただその中でもやはり御指摘をいただく部分に関しては、幹部連絡会の中で看護部であれば看護部長、診療技術であればそれぞれの課長さんあてに幹部会でお話しした内容を下ろして、まずそれぞれの部署の所属長の方々にお知らせをし改善を図る。それで改善がない場合も改めてまた上のほうに吸い上げて、それぞれを精査して、どのような形で整理していくかということを話しているという状況になります。

○平山委員 分かりました。以上です。

○高橋委員長 はい。この件について他に質問のある方いらっしゃいますか。ラインの回答が。どうぞ。

○医事係長 町立病院医事係長の中山です。ライン通知サービスの試験運用の結果につきまして御報告させていただきます。結果としましては、特定の診療科を除いては、一定の利便性を提供できているものと考えておりますので、本格運用に向けた計画を予定しているところです。ライン通知サービスの利用状況等について簡単に申し上げます。10月末時点で登録者数は1441人、メッセージ数は10月の1か月間で1308通、1日当たりで換算しますと60通、基本的に1度の受診で受付時と診察間近とで2通のメッセージが送信されるため、平均利用者数としてはその半分の30名程度と分析しているところです。試験運用を実施している小児科、外科、耳鼻咽喉科の3診療科の10月の1日平均患者数は120人程度ですので、そのうちの30人、つまり約25%の利用者がいる計算になりますが、実際はそれよりも少なくなるものと見込んでおります。なお登録者数の男女比は女性が76%、男性が24%となっております。運用上の課題としましては、通知があつてから実際の呼び込みまでの時間間隔が、前の患者さんの診察時間に大きく左右されるという点です。試験運用を実施している3診療科のうち、外科外来では一人一人の診察に30分から1時間近くかかる場合があり、実際に通知があつてからかなりの時間を待たされたと、サービス利用者からの苦情がありました。利用に当たっての注意事項としましては、あくまで目安程度という位置づけで御案内していますので、御理解いただきたいところではあります。こうした苦情をはじめ、現場の職員が対応せざるを得ない事態が発生することは、職員への業務負担及び精神的負担並びにスムーズな診察の妨げとなりますので、外科外来をはじめ通知サービスの提供がなじまない診療科では、かえってサービスを提供することで双方に混乱を招く場合があることから、本格運用では各診療科の特性を踏まえた上でサービスの提供の有無を慎重に判断していくことを考えております。一方、診察の流れが比較的スムーズな小児科外来ではうまく運用できているものと認識しておりますので、ライン通知サービスについては、今後も継続して提供していくべきサービスというふうに考えております。以上です。

○平山委員 分かりました。

○高橋委員長 よろしいでしょうか。はい。他に質問ある方いらっしゃいますか。よろしいですか。なければこれで町立病院の質問を終わります。部局の入替えのために暫時休憩をいたします。お疲れ様でした。